日本が2021ワールドカップシーズンのナショナルチーム1位のトロフィー表彰を受ける

スピードジャパンカップ　男子優勝 大政 涼

スピードジャパンカップ　女子優勝 河上 史佳

山とスポーツクライミング情報誌

# 登山月報

JMSCA
登山月報　第637号　令和４年４月15日発行
昭和45年12月12日第三種郵便物認可（毎月一回15日発行）

エベレスト南西壁

No.637

ロシア政府軍のウクライナ侵攻に関する声明…… 2
スポーツクライミング第４回スピードジャパンカップ …… 2
＊スポーツクライミング第２回スピードユース日本選手権亀岡大会
国際スポーツクライミング連盟2022年総会報告 …… 3
山岳スキー国際大会視察報告 …… 5
自然保護委員会のSDGsな活動③ …… 8
Enjoy Climbing …… 9
JMSCA、表紙のことば、編集後記 …… 11

# ロシア政府軍のウクライナ侵攻に関する声明

公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会(JMSCA)は、UIAA、FSC、ISMFの国内競技連盟として、ロシア政府によるウクライナへの軍事侵攻を強く非難し、即時対話による停戦、平和解決を求めます。

私共は、Dmitry Bychkov会長が率いる Climbing Federation of Russiaとは友人関係にあり、同会と JMSCAはスポーツクライミング競技を愛し、共に競技普及、選手育成・強化に努めてまいりました。同会に限らず、ロシア国内の多くのスポーツクライミングファンとも、深く・長い友好関係があります。この唯一無二の関係は、いかなる戦争行為にも侵されるものではありません。

ウクライナ国内においても、多くのスポーツクライミングファンが存在し、過去の国際大会においても活躍してきました。

彼らは今、日々のトレーニングはもとより、家族・友人との別れを余儀なくされ、毎晩眠れぬ夜を過ごしています。

我々は、ベラルーシを含めた三国民に対する差別、誹謗中傷、迫害的行動の強制が行われないことを要望します。

ロシア、ベラルーシの登山愛好者・アスリートと、両国政府による戦争行為を同一視し、マイノリティー、弱者に対する差別、行動の強制は決して許されるものではなく、我々は決して第三者的立場で傍観し、沈黙を続けることは許されません。登山、スポーツクライミング、山岳スキーを愛する私共自身だからこそ、一つでも多くの客観的情報を求め、多くの当事者からの生の声に耳を傾けるべきでしょう。

この戦争は、いつかは終わります。その終結後も、両国の間には深い溝と傷が残ることを我々は知っています。失われた人命とその遺族の悲しみは永遠に世界の歴史に刻まれます。ウクライナ国民の生活、インフラ復旧には多大な時間を要し、ロシアの国際的孤立は深まることでしょう。そうした戦後時代を共に生きるために、我々、登山を含む山岳スポーツとスポーツクライミングを愛する者は、今何を為すべきか、真剣に考えていくべきなのです。

2022年3月15日

公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会
会長　丸 誠一郎

## スポーツクライミング第4回スピードジャパンカップ（SJC2022）

### ＊スポーツクライミング第2回スピードユース日本選手権亀岡大会（SYC2022）

期日　2022年3月6日（日）（スケジュール）
会場　サンガスタジアム by KYOCERA グラビティリサーチ

ＳＪＣ2022、ＳＹＣ2022を去年同様、COVID-19感染防止として無観客で開催。コンバインドからスピード競技が独立することが決定され、新たな顔ぶれでの初めての国内大会。女子は、河上史佳が初出場初優勝を、男子は予選で２本とも５秒台をマークした池田雄大をおさえて大政涼が優勝を勝ち取った。全体的には、タイムにばらつきがあるが、平均値で見ると去年より男子で0.43秒、女子で0.85秒速くなっている。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 参考：出場者平均値タイム | ＳＪＣ2021 | 男子　8.51秒 | 女子11.61秒 |
| | ＳＪＣ2022 | 男子　8.08秒 | 女子10.76秒 |

■SJC　男子

| Rank | | Big Final | Small Final | 1/2St | 1/4St | 1/8St | Qualifying | | avg. |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 大政　涼 | 6. 68 | | 6. 24 | 8. 55 | 8. 84 | 5. 79 | 6. 09 | 7. 03 |
| 2 | 池田　雄大 | 9. 19 | | 6. 12 | 6. 16 | 8. 36 | 5. 94 | 5. 86 | 6. 94 |
| 3 | 北見　宗和 | | 6. 17 | 10. 58 | 6. 28 | 6. 42 | FALL | 6. 56 | 7. 20 |
| 4 | 三田　歩夢 | | 7. 61 | 6. 46 | 6. 46 | 6. 54 | 6. 53 | 6. 78 | 6. 73 |
| 5 | 谷井　和季 | | | | 6. 43 | 6. 96 | 6. 53 | 6. 69 | 6. 65 |
| 6 | 梶　晃悠 | | | | 6. 54 | 6. 73 | 6. 68 | 7. 1 | 6. 76 |
| 7 | 真鍋　竜 | | | | 7. 71 | 7. 08 | 7. 27 | 8. 51 | 7. 64 |
| 8 | 赤羽　陸 | | | | 9. 15 | 7. 31 | 7. 17 | 9. 99 | 8. 41 |
| 9 | 古屋　生吹 | | | | | 6. 98 | 7. 5 | 7. 39 | 7. 29 |
| 10 | 本明　優哉 | | | | | 7. 24 | 7. 73 | 9. 43 | 8. 13 |
| 11 | 阿部　央彦 | | | | | 8. 47 | 7. 44 | 9. 81 | 8. 57 |
| 12 | 滝口　紘生 | | | | | 9. 36 | 9. 59 | 10. 43 | 9. 79 |
| 13 | 竹田　創 | | | | | 10. 46 | 7. 19 | 11. 31 | 9. 65 |
| 14 | 山本　恭也 | | | | | 11. 85 | 7. 1 | 8. 82 | 9. 26 |
| 15 | 淺見　陽樹 | | | | | 13. 08 | 7. 74 | 8. 52 | 9. 78 |
| 16 | 戸田　祐敬 | | | | | FALL | 8. 05 | 10. 88 | 9. 47 |
| DNS | 安川　潤 | | | | | | — | — | |

■SYC　ジュニア男子

| Rank | | Big Final | Small Final | 1/2St | 1/4St | 1/8St | Qualifying | | avg. |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 本明　優哉 | 7. 6 | | 8. 72 | | | 7. 55 | 7. 73 | 7. 90 |
| 2 | 藤野　柊斗 | FALL | | 6. 17 | | | 6. 63 | 6. 48 | 6. 43 |
| 3 | 阿部　央彦 | | 7.2 | 11. 95 | | | 13. 21 | 7. 6 | 9. 99 |
| 4 | 淺見　陽樹 | | 8.19 | 7. 48 | | | 7. 77 | 7. 93 | 7. 84 |

■SYC　ユースＡ男子

| Rank | | Big Final | Small Final | 1/2St | 1/4St | 1/8St | Qualifying | | avg. |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 三田　歩夢 | 6. 2 | | 6. 48 | | | 7. 13 | 6. 7 | 6. 63 |
| 2 | 谷井　和季 | FALL | | 6. 95 | | | 6. 82 | 6. 96 | 6. 91 |
| 3 | 古屋　生吹 | | 6.93 | 9. 44 | | | 6. 96 | 12. 23 | 8. 89 |
| 4 | 真鍋　竜 | | 8.94 | 11. 36 | | | 7. 3 | 7. 25 | 8. 71 |
| 5 | 山本　恭也 | | | | | | FALL | 9. 94 | 9. 94 |
| 6 | 滝口　紘生 | | | | | | 10. 37 | 10. 16 | 10. 27 |

■SYC　ユースＢ男子

| Rank | | Big Final | Small Final | 1/2St | 1/4St | 1/8St | Qualifying | | avg. |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 田渕　幹規 | 6. 53 | | | | | 8. 89 | 6. 88 | 7. 43 |
| 2 | 上柿　銀大 | 8. 53 | | 7. 1 | | | 8. 44 | 7. 48 | 7. 89 |
| 3 | 三宅　祐希 | | | 10. 45 | | | 9. 67 | 11. 06 | 10. 39 |

■SJC　女子

| Rank | | Big Final | Small Final | 1/2St | 1/4St | 1/8St | Qualifying | | avg. |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 河上　史佳 | 8. 63 | | 8. 64 | 8. 84 | | 8. 93 | 14. 31 | 9. 87 |
| 2 | 林　かりん | 9. 45 | | 8. 57 | 8. 16 | | 8. 59 | 8. 42 | 8. 64 |
| 3 | 竹内　亜衣 | | 9.47 | 9. 11 | 9. 52 | | 9. 53 | 9. 45 | 9. 42 |
| 4 | 金谷　春佳 | | 9.93 | 9. 4 | 10. 01 | | 9. 73 | 10. 91 | 10. 00 |
| 5 | 鈴木可菜美 | | | | 10. 33 | | 9. 53 | 9. 58 | 9. 81 |
| 6 | 多月萌々菜 | | | | 10. 81 | | 10. 87 | FALL | 10. 84 |
| 7 | 相原麻菜美 | | | | 11. 96 | | FALL | 10. 47 | 11. 22 |
| 8 | 林　奈津美 | | | | 15. 05 | | 15. 21 | 9. 3 | 13. 19 |
| 9 | 佐々木里花 | | | | | | 11. 46 | 12. 89 | 12. 18 |
| 10 | 大嶋あやの | | | | | | 12. 12 | 12. 68 | 12. 40 |

■SYC　ジュニア女子

| Rank | | Big Final | Small Final | 1/2St | 1/4St | 1/8St | Qualifying | | avg. |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 鈴木 可菜美 | 10. 2 | | | | | 12. 93 | 10. 52 | 11. 22 |
| 2 | 相原 麻菜美 | 15. 56 | | | | | 10. 75 | 10. 92 | 12. 41 |

■SYC　ユースＡ女子

| Rank | | Big Final | Small Final | 1/2St | 1/4St | 1/8St | Qualifying | | avg. |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 林　かりん | 8. 4 | | 8. 97 | | | 9. 47 | 8. 85 | 8. 92 |
| 2 | 河上　史佳 | 8. 81 | | 9. 13 | | | 13. 31 | 8. 9 | 10. 04 |
| 3 | 竹内　亜衣 | | 9.66 | 9. 74 | | | 9. 67 | 9. 51 | 9. 65 |
| 4 | 金谷　春佳 | | FALL | 10. 12 | | | 10. 08 | 10. 84 | 10. 35 |
| 5 | 多月萌々菜 | | | | | | 13. 69 | 12. 2 | 12. 95 |
| 6 | 佐々木里花 | | | | | | 18. 83 | 13. 36 | 16. 10 |

■SYC　ユースＢ女子

| Rank | | Big Final | Small Final | 1/2St | 1/4St | 1/8St | Qualifying | | avg. |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 関川　愛音 | 9. 46 | | 11. 53 | | | 11. 2 | 11. 02 | 10. 80 |
| 2 | 藤村　侃奈 | 9. 55 | | 10. 26 | | | 11. 43 | 9. 51 | 10. 19 |
| 3 | 麦島　心花 | | 13.01 | FALL | | | 13. 86 | 13. 6 | 13. 49 |
| 4 | 小屋松　恋 | | 13.09 | 13. 81 | | | 13. 55 | 14. 26 | 13. 68 |

# 国際スポーツクライミング連盟2022年総会報告

**水村　信二**（理事、ＳＣ部国際委員長）

**【はじめに】**

2022年３月18日と19日の２日間、米国ユタ州ソルトレイクシティーおきまして、国際スポーツクライミング連盟（ＩＦＳＣ）総会が現地およびオンラインのハイブリッドにて開催されました。また総会に先立ち、３月17日には現地参加者によるワークショップも開催されました。日本山岳・スポーツクライミング協会（ＪＭＳＣＡ）からは、丸会長、安井理事（強化委員長）、そして筆者水村（理事、国際委員長）の３名、そして小日向副会長がＩＦＳＣ副会長として現地にて対面参加しました。現地参加者はＩＦＳＣ役員およびスタッフをはじめ、地元米国、カナダ、ブラジル、チリ、エクアドル、スイス、ノルウェー、スウェーデン、オランダ、キプロス、イギリス、オーストリア、チェコ、シンガポール、タイ、サウジアラビア、日本、オーストラリアなどから約50名となり、ワークショップや総会では、活発な議論がなされました（写真１）。オンライン参加したＮＦは約20となり、現地参加のＮＦと合

総会会場の様子

ワークショップ「オリンピック経験者報告」での丸会長、出場選手、小日向ＩＦ副会長

ナショナルチーム表彰後の記念写真（右から小日向ＩＦ副会長、丸ＪＭＳＣＡ会長、筆者水村）

総会終了後の集合写真　©Jan Virt/IFSC

わせて最大40か国のＮＦによって総会議案の投票がなされました。以下に、３日間の主な活動について報告します。

**【ワークショップ】**

３月17日午前中は「東京オリンピック2020参加者報告」が行われ、ＪＭＳＣＡ丸会長、東京オリンピック2020に出場したカナダのショーン・マッコール選手、イギリスのショウナ・コクシー選手、米国のカイラ・コンディ選手、そして東京オリンピックのスポーツクライミング競技をスポーツディレクターとして仕切った小日向の５名が檀上に上がり、それぞれの立場から東京オリンピックを振り返りました（写真２）。丸会長におかれましては、このワークショップのため図表を交えたスライドを10枚以上準備していましたが、当日の司会進行都合により口頭のみの発表となったことが少々残念でした。東京オリンピックに出場した３選手からは、それぞれの立場からの経験談をきくことができました。小日向氏からは、東京オリンピック開催がきまるまで、決まってからの準備、大会の開催、そして後処理までの過程で体験された多くの困難や達成された内容などが報告されました。また、このワークショップ内に、2028ロサンゼルスオリンピックに関する情報も提供され、エンブレムなども披露されました。

午後は「クライミングについて話し合おう」と題したアイスブレイキングを兼ねたグループワークが行われました。現地参加のＮＦメンバーを数名ずつのグループに分け、ＩＦ側が用意した「お題」についてグループ内で話合い、各グループの代表者が皆の前で話し合った内容をプレゼンするというものでした。筆者は、カナダ、オランダ、シンガポール、チリのメンバーと一緒になり、スポーツクライミングをよりメジャーにするためのアイディアについて話し合いました。このように、オリンピックに関する様々な話を聞いたり、他国の連盟・協会のメンバーとでクライミングについてディスカッションしたりすることができるのは、現地参加者の特典といえるでしょう。

**【フォーラム・総会１日目】**

３月18日午前中は総会にむけてのフォーラムとして、ＩＦＳＣが議案として用意していた定款変更について検討するフォーラムでした。ここでは、今後のＩＦＳＣの活動内容や利益を考え、スポーツクライミングという競技名や用語をクライミングに変更してはどうか？という提案に対する議論に終始しました。多くのＮＦ役員から、反対意見や時期尚早である旨の意見が発せられ、40ページに渡たる他の多くの定款変更内容にディスカッションが及ぶことは残念ながらありませんでした。。

午後から総会が開催され、ＩＦＳＣ加盟数（95）の報告、ＩＯＣバッハ会長からのメッセージの後、ロシア連盟とベラルーシ連盟の資格停止が賛成多数で議決されました。この日の重要議決はこの点でした。また、翌日の予定だったNational Team Trophiesがこの日に変更となり、日本が2021ワールドカップシーズンのナショナルチーム１位のトロフィー表彰を受けました。プレゼンターはＩＦ副会長としての小日向氏、トロフィーを授与されたのは丸会長。写真３は表彰後に筆者も参加させていただき撮影いただいたものです。その後は、2024パリオリンピックフォーマットのテストイベント、ユースオリンピックイベントなどの報告、新世界ランキングシステムに関する説明など多くの行事について報告がなされました。

**【総会２日目】**

３月19日の重要なトピックは、スイス連盟からの動議により、ＩＦＳＣが検討していた定款変更に関する議案を2023年にシンガポールで開催予定の総会への先送りが賛成多数で決議されたことでした。ＩＦＳＣ役員としましては、残念な結果となったかもしれませんが、2023年総会までに定款変更内容について十分な議論をするため、次回総会までに多くのＮＦメンバーが参画する議論の場が設けられることになるため、結果的にはＩＦＳＣ定款がより良いものになることを期待しています。また総会中に、倫理委員会委員の活動保留の報告が書面で配られましたことも併せて報告させていただきます。その他の報告の多くはオリンピック関連のものでした。写真４は総会終了後に現地参加者全員で集合写真を撮ったものです。

**【最後に】**

以上、中身の濃い３日間をソルトレイクシティーで過ごすことができました。2028ロサンゼルスオリンピックにおいて28競技のプログラムに加わるなど、スポーツクライミングがオリンピック競技に根付きつつある過程にあることが実感された３日間でもありました。なお、米国出国前のＰＣＲ検査におきまして、USA ClimbingのZack DiCristino氏には多大な配慮をいただきました。ここの場を借りてお礼申し上げます。最後に、コロナ禍においてこのような行事に参加することができたことに感謝して本報告を終えさせていただきます。

# 山岳スキー国際大会視察報告

小野寺　斉
丸山　尚子
松澤　幸靖

今回は選手１名を含め４人であった。全体的なことを小野寺が、大会・競技そのものの報告を松澤が行う。一部ダブルところがあるがご容赦をお願いいたします。丸山氏には出発準備からＰＣＲ検査等含め現地手配まで全てに渡ってご協力いただいた。厚く御礼致します。

## Ⅰ　全体概要 …… 小野寺

始めに

目的等については下記に書いてある通りであるが、今回は旅程にも貴重な体験をさせて頂き、記憶だけでなく記録としても簡単に書いておきたい。コロナ禍がまだ収まりきらない中の出発に付け加えてロシアによるウクライナ侵攻もあり、フライトも通常と違う経路になりいつもより時間を要した。帰国後もフライト同乗者に陽性反応があった客もいたようで、我々は陰性でも自宅待機を余儀なくされた。

以下、報告となる。

１．World Cup Val Martello 大会視察

２．日程　2022年３月15日㈫～ 22日㈫
　　※大会は３月18日㈮～ 20日㈰

３．目的
　大会運営について
　国際連盟（ＩＳＭＦ）との連携強化
　日本の選手と世界の選手について

４．同行
　丸山尚子氏（ＩＳＭＦアジア地区理事、ＮＦ山岳スキー委員）
　松澤幸靖氏（ＮＦ山岳スキー副委員長　強化委員長）
　大会にシニア男子選手として　遠藤健太氏参加

５．行動
　上記松澤氏と遠藤選手とは現地にて合流、私と丸山氏は日本から同一行動。

６．旅程

16日０時過ぎ出発。フライトは羽田～フランクフルトまで、ロシアを外して中国上空等を通り16時間要し、さらに予定より到着が遅れ次のフライトに間に合わず約８時間フランクフルトで過ごす。フランクフルトでは偶然同じフライトに乗り合わせた日本人１名と話すことができた。彼は冬季オリンピック競技の国際連盟役員であった。ただＮＦの役員ではない。理由を聞いたら利益相反になるとの考えでＮＦの方針として兼任は認めないらしい。ＩＯＣを含めた国際の関係についての知識も当然ながらあった。

その後ウィーン、ルクセンブルクと繋ぎ松澤氏等の出迎えを受け、車でイタリアに入り、翌17日の１時過ぎにホテル到着した。北イタリアであり、南チロル地方であり、イタリア語のみでなく、ドイツ語併記になっている。

17日：大会のためのPCR検査の後、ACR（accreditation 大会関係者認定証）を受け取る。

18日～ 20日午前　後述する。

19日も帰国用PCR検査を行う。

20日午後　会場地近くのホテルから空港近くのホテルに移動する。表記はイタリア語のみ。ベローナ空港～フランクフルト～チューリッヒ～ 22日15時過ぎ成田に戻る。事前のコロナ関係アプリ審査、及び唾液ＰＣＲ検査を行い陰性、自宅に戻る。翌23日1730頃にアプリに連絡があり、我々以外のフライト同乗者に陽性が出たとのことで一週間自宅待機になる。

７．大会及び国際連盟との打ち合わせ（18日～ 20日午前）

私自身は国際連盟（ＩＳＭＦ）の関係者とは今までは面識がなかったが、大会や面会を通じて今後は連絡が取りやすくなった。前会長のThomas氏とは彼のＵＩＡＡ時代から親しかったが、すでに辞任しており、現会長代行であるRegula Meier氏と挨拶したかったが、残念ながら参加していなかった。代わりにGeneral ManagerのRoberto Cavallo氏、Official DelegateのPierre Dupont氏及びJuryの委員長であるZuzanna Rychlikova氏と話すことができた。後２者とは意見交換もできた。

大学関係ではＦＩＳＵの話が出た。実は来る前に私宛でcc；笹生氏にメールで連絡があった。笹生氏に返信してもらったが、大学のクラブには競技としての山岳スキー部は存在せず、今後考えるとのことだったように記憶している。同様に返答はした。

日本の今後について、多少無理をしたが、Road Mapについて説明した。４年後のオリンピックではアジア枠で出場30位前後、さらにその４年後もし札幌開催で山岳スキーが種目であればメダルを取りたいとの話をした。直接の返答はなかったが、勿論協力はするとのこと。国際審判員の講習会も検討中とのこと。予算規模はフランスが30万ユーロ、イタリアはもっと多いとのことであるが、単純に日本との比較は出来ない。

Pierre氏はＦＦＭＥの方であり、提携の話もでた。ＳＣの関係ですでにＪＭＳＣＡとＦＦＭＥとは提携しているとの話をして、帰国後内容確認することになった。日本でのＪＯＣ，ＪＳＣの補助金の話は国内事情もあり、あまり

しなかった。オリンピック種目になったばかりであり、ＩＯＣの方針に沿っていくが、ＩＦとしての展開はこれからといったところ。

今回の大会について、参加国は18か国、参加選手は男女合わせて150名強であるが、アジアは日本、タイ選手各１名、中東はトルコ３～４名、他にＵＳＡなど。北欧等含めヨーロッパが圧倒的に多い。特にスイス、フランス、イタリア、スペインなどは選手層の厚さを感じさせた。アルプスがあるせいか。タイは、来年は日本でアジア選手権を開いてほしいと言いながらコーチと一緒にindividualのみで帰っていった。

18日：Individual競技

山間部の競技であり、sprintより谷の上部でのスタート・ゴールになる。雪の状態であるが、コース内はともかく、柵の外側はグズグズになっており、全体的なコンディションとしてはどうであったか素人ながら気になったところである。

会場にはテントが設置され、食事・飲み物が無料で提供され、運営スタッフもスムーズに働いていた。トイレの数は少なかった。

スタートの順はカテゴリー別になっていた。シニア男子は930にスタートし、トップは１時間30分程度でゴールしていた。途中足切りになった選手もいたようであるが、遠藤選手は見事にゴールした。50位であった。トルコチームのコーチに確認した。若い選手が３，４人いた。年間20,000ユーロの予算と聞いた。使い道は条件も違うだろうし、確認していない。今回は足切りになった選手もいたようではあるが。

スイスのコーチらしき人と会話した。予算は10万ユーロ、やはり使い道は聞いていないが、ニュージーランドと提携しており、夏はそちらでトレーニングとか。また、旅費については会場まで山を越えて来るだけであまり使っていないとも言っていた。

19日：キャプテンミーティングの後に前述通りに打ち合わせさせてもらった。

20日：sprintは近くにレストランのある場所で行われた。通常はバイアスロンやクロスカントリーの会場になっている。シニア男子トップは３分30秒程度でゴールしている。遠藤選手もよく頑張った。46位であった。

一昨日に会ったスタッフが家族で来ていたが、私を建物の最上階に案内してくれた。そこはＶＩＰルームになっており、飲食は無料、いろんな人たちが歓談していた。大会運営の参考になった。

８．今　後

日本選手は世界大会に数年ぶりの参加と思う。今までは日本が世界選手権に参加した時の記録は報告で知っていたが、今回ワールドカップの競技を目の当たりにして、選手層、特にユース選手の発掘は緊急の課題ということが、言われていた以上によくわかった。後は強化とその費用である。ある程度のレベルの（海外）選手との合同トレーニング、コーチも含めての練習方法、整備されたゲレンデではなく、自然そのままの山間部のトレーニングが必要になる。場所的なことを考えると日本にあるのかどうか、そのあたりが課題と思う。急にオリンピック種目になり、何もかもは出来ないが、プライオリティをつけての計画になるだろう。

９．謝　辞

今回の選手の参加にあたりＡＤ委員会の角田委員長からＡＤの英文証明書も直前の依頼にも関わらずフェアネス機構から取得していただいた。厚く御礼致します。

## Ⅱ　大会・競技 …… 松澤

■日　程

2022年３月13日（日）～３月22日（火）10日間

■目　的

・各国選手の実力確認と日本選手との差の把握
・大会のセッティング方法と運営
・コーチほかＩＳＭＦ関係者との関係構築

■報　告

移動に関して

遠藤選手と私は今回同日程の予定であったが、わずかな１日の手配の違いで、ウクライナ情勢もあって料金が大幅に値上がりし、航空会社による航路と発着場所も各々が最初の予定と変わることになり、その為、便と到着時間に遅れも出たが、無事予定通りの日程で現地入りすることができた。

レンタカーでの移動運転距離はトータルで約1200ｋｍと予想を超えハードであり神経を使った。

Individua種目（1575Ｄ＋）

現地入りして翌日に早速individualコースの試走に出かけたが、雪が思ったよりも少なく、草の上をシールで歩くような部分や岩が多く出ており、雪の状態も悪く危険な部分も多かったが、大会当日は天候の心配もあって、少しコースが短くなり距離18.4km・登り標高差1575ｍ（1575Ｄ＋）にて開催された。大会参加はヨーロッパ諸国中心の18カ国であったが、アジアで世界選手権に多く選手を送っている中国からの参加はなかった。遠藤健太選手はトップから約53分差で50位。日本選手の課題は多く、単にシールスキーでの走法、滑走技術、心肺機能の強化も行う必要はあるが、圧倒的に足りないのは、山岳

（雪質、斜度、気象条件、標高、地形対応など）での経験とトレーニングであると感じた。

冬はどうしても効率的にゲレンデ中心のトレーニングが多くなりがちだが、今後は年間でゲレンデ使用のトレーニングよりも山岳トレーニングを増やす必要がある。その為には安全性を考え、山岳での春と秋の合宿体制（単独を避ける為）が理想と考える。

Individual 各国選手の力走

**■インディビジュアル競技　成績（男子シニア）**

| 順位 | 名前 | 国 | タイム |
|---|---|---|---|
| 1位 | Davide MAGNINI | ＩＴＡ―イタリア | 1:38:57.6 |
| 2位 | Rémi BONNET | ＳＵＩ―スイス | 1:39:38.7 |
| 3位 | Xavier GACHET | ＦＲＡ―フランス | 1:40:09.9 |
| 50位 | 遠藤　健太 | ＪＰＮ―日本 | 2:31:42.9 |

Sprint 種目（80ｍＤ＋）

雪の少ない北向きの斜面に途中に、上にいくほど狭くなるコースで、スキー担ぎまでの間でほぼ順位が決まるような状況の中、太い角材で作られた階段登り、狭いトランジットで、相手選手のポールをわざと踏んだり、シールをはいで最後の滑りに同時に出ようとする選手をお互いに制するような、格闘に近い先を争う行為なども見られ、あらためて、「短い距離で順位を争う競技に格闘はつきもの」であり、ズルさを含めた戦略が必要な種目であるということに気付かされた（このあたりはオリンピックまでに禁止行為が規定される可能性もあると考えている）。

遠藤選手のSprintは46位であった。Sprintは、予選（タイムトライアル）以外は全て着順で順位が決まる為、タイム差は予選を参考にするしかないが、今回は1分20秒の差があった。背負ったスキーが外れるアクシデントで約20秒ロスを差し引くと、トップ選手との差は1分であり、日本トップ選手と世界の予想される差は約30～40秒ということになる。

気付いたのはヨーロッパ選手の滑りを見る限りではアルペン出身であろうと思われる選手が、トップの中に多く見られるようになって来ているということ。1回が3分～4分の競技なので、この種目で勝つには瞬発系のトレーニングを多く取り入れる必要があり、また今後アルペン種目での経験が多く、心配機能の高い選手の発掘もしていく必要はある。

Sprint スキーを担いでの登高

**■スプリント競技　成績（男子シニア）**

| 順位 | 名前 | 国 | トライアルタイム |
|---|---|---|---|
| 1位 | Oriol CARDONA COLL | ＥＳＰ－スペイン | 3:22.9 |
| 2位 | Matteo FAVRE | ＳＵＩ－スイス | 3:11.8 |
| 3位 | Arno LIETHA | ＳＵＩ－スイス | 3.21.3 |
| 46位 | 遠藤 健太 | ＪＰＮ－日本 | 4:30.9 |

用具の仕上げに関して

1）シールの仕上げに関しては、スイスチームは大会用にワックスのアイロン掛けは行なっているということであった。

2）スペインチームのワックスルームを遠藤君が借りた際には、リキッドワックスも多く見られた。

これは、最近のアルペン競技にも見られることで、シールにリキッドワックスをこれから多く試す必要がある。日本国内のワックスメーカーとも今後相談してみたい。

その他

1）コースセッティングに関しては、とにかくその場において難易度をどれだけ上げようかという意図は感じられた。（ジグの切り方、斜面選など）

2）大会のたびに使用するフォーム形式など、今後はできるだけＩＳＭＦと同様式のものを使用できるようにしていくと何かと都合が良いのではないかと思う。

スプリント競技：クラブハウスから見るコース全容

# 自然保護委員会のSDGsな活動③

登山部
自然保護委員会

2022年３月６日、29都道府県43名が参加して、2021年度の自然保護委員総会・全国委員長会議を開催しました。コロナ禍で多くの活動や会議が中止や延期を余儀なくされている中、何とか開催に漕ぎつけることができました。当委員会初の全国規模のＷＥＢ会議ということで相当な時間と労力を掛けて準備してきましたが、当日は不安定な音量や画面共有場面等に不手際があり、会議運営に多くの課題を残しました。とはいえ、これまでになく多くの地域からの参加を頂けたことは、まさしくＷＥＢ会議の優位性の表われでした。

当日の会議では、ＰＣを通しての発言に不慣れな参加者も多々いらっしゃいましたが、お国言葉が飛び交う和気藹々の雰囲気の中にも真摯な意見交換が行われました。

総会に先立ち、全国の自然保護委員会がこれまで行ってきた活動および今後実行予定の活動をＳＤＧｓな視点で捉えるアンケートを実施、併せてそれらの活動を円滑に行うために何が問題となるかについて洗い出しをお願いし、全国39の都道府県からご回答を頂きました。活動がＳＤＧｓのどの目標に合致するか大変迷われたとのお声が多数ありましたが、当日の議論で、ＳＤＧｓな活動がいくつもの目標に繋がり、またあらゆる場面で数限りなく存在すること、私たちがこれまで続けてきた山岳環境を護る活動はまさしくＳＤＧｓな活動であることを再認識されたと思います。

そして「山の緑を守り、素晴らしい日本の山岳美を未来に残そう」を大会スローガンとして決したことで、全国の自然保護委員会は各地域の実情にあった山岳環境保全活動を益々充実活性化させていこうとの思いを強くされたと感じました。

また、これまで発信力のなさから「活動が見えにくい」とのご批判を頂いてきましたが、少しでも「見える化」するために、全国の自然保護委員会のＳＤＧｓな活動を『登山月報』のこの連載にリレー方式で投稿していこうとの提案も了承されました。早ければ次号より、沖縄県から開始致します。連載が途切れることなく全国を巡りますよう、ＪＭＳＣＡ委員会も協力していきたいと思います。

また今回、ＪＭＳＣＡ委員会から「森林の整備」を全国的に展開することの可否をお諮りしたところ、サポートがあればの条件付きも含めると８割強の都道府県から活動したいと回答を得ました。これまで取り組んできた山岳環境保全活動の一環であり、延いては温暖化対策としてのカーボンニュ―トラルの一助となり、自然生息地の劣化を抑制することで生物多様性と生態系の保全を果たし、災害のリスクも軽減して「誰も取り残さない持続可能な社会を作ること」に繋がるＳＤＧｓな活動であるとの認識も共有できたと思います。

事前アンケートでは、具体的に取り組みことが可能な活動としては「登山道整備」がトップ、次いで「外来種対策」、そしてその次が「植林」や「間伐・下草刈り」となっています。さらに、活動する上での問題点として、「老齢化」「人出不足」「資金不足」「スキルがない」「活動に必須の器機が不足」等々が挙げられました。

また併せて回答頂いた近年の『委員会活動報告』によれば、「登山道整備」や「外来種対策」は既に多くの委員会が取り組んできている活動であることもわかりましたので、次年度からは「植林やその維持管理の活動」をメインに取り組んでいこうと考えています。回答頂いた問題点をクリアし、活動が順調に広がるような様々な方策を検討しています。

全国の山屋さん、「森林整備」活動の全国的な推進に是非ともご協力を賜りたくお願い致します。

なお、総会報告および事前アンケート結果等々の総会資料は順次ＪＭＳＣＡのＨＰにＵＰしていきますので、ご覧頂きたいと思います。

（自然保護委員長　小髙令子）

# Enjoy Climbing

連載①　事故と復活

これよりしばらくの間、連載を仰せつかりました佐藤裕介と申します。まとまりのない自分の登山と旅の羅列となりそうですが、どうぞよろしくお願い致します。

私の事は知らない方も多いと思いますので、自己紹介から始めさせていただきます。

1979年生まれ。いつの間にか42歳になりました。私の登山は高校山岳部からとなります。大学の山岳部がショボ過ぎた為、地元で最も活発だった社会人山岳会「めっこ山岳会」に入れてもらい私の本格的な登山人生がスタートしました。そこからは、私の人生の中心は登山とクライミングであり続けております。大学卒業後、地元山梨に戻り10年間、サラリーマンをしながら山を続けておりましたが、現在は山岳ガイドとして生計を立てております。卒業後、就職したのは従業員もごく少ない小さな会社だったので、社会人としてスタートしてからしばらくは、長期休暇は年末年始の休暇に加え有休を少し追加するのが精一杯。その期間で冬山登山や台湾の沢へ行っていました。3年ほどそれで我慢していましたが、やはりアルパイン系の海外遠征の欲求は抑えられませんでした。それまで勤めていた会社では無理だろうと会社を辞し本格的な遠征に臨もうと思ったのですが、年に一回くらいなら良いだろうと会社の理解を得て辞めることなく、それから毎年アラスカ、カラコルム、インドヒマラヤなどに遠征を繰り返しておりました。私自身の振り返りとしても丁度良い機会なので、これまで印象に残った海外遠征＆国内山行一覧を書きました。これからの連載では以下の登山の話になると思います。

**●海外遠征＆国内山行一覧【海外遠征】**

2000年　南米アンデス山脈を南下しつつアルパインクライミング＆旅（単独）10ヶ月間
2002年　ヨセミテ エルキャプ、ハーフドーム、ワシントンコラム（全て単独）
2005年　台湾 金崙溪 初遡行
2006年　台湾 老西渓 初遡行（3月）
　　台湾 豊坪渓（11月 中間部まで）
2007年　アラスカ ルース氷河にて3本の新ルート登攀
2008年　アラスカ・ベアーツゥースの新ルート登攀
　　アラスカ・デナリでの継続登攀
　　インド ヒマラヤ カランカ北壁ダイレクト（6931m）初登
2009年　パキスタン スパンティーク（7027m）ゴールデンピラー完登 2100m
2010年　パキスタン ラトック1峰 北壁 5900mまで
2011年　パキスタン ウルタル2峰 南東ピラー 6500mまで
2012年　ハワイ カウアイ島 waialea stream 初遡行
2013年　台湾 恰堪溪 初遡行
　　レユニオン島 TOUR DE FER 初遡行
　　ザイオン　ムーンライトバットレス5.12 d 12 P 360m チームオンサイト
　　ヨセミテ エルキャプ　フリーライダー 5.12 d 35 P 1000m 完登
2014年　パタゴニア　ティト・カラスコ西壁 新ルート開拓
2015年　パキスタン ウルタル2峰 南東ピラー敗退
2016年　エルキャプ ノーズオールフリー敗退
2017年　パタゴニア エルモチョ バリエーション開拓初登
　　パキスタンBEATRICE（5800m）東壁 The Excellent Adventure フリー化 600m 5.13 a
　　エルキャプノーズオールフリー完登？（28 P～30 P目5.10 dの間はツルベによるトップ＆フォローでのクライミング）
2018年　ボルネオ島キナバル山 パナタラン川ローズガリー敗退（4月）
　　インドヒマラヤ セロ・キシュトワール（6200m）北東壁 初登
2019年　パタゴニア フィッツロイトラバース敗退

以上の遠征について時系列的に順序だててまとめるのは大変そうなので気が向くままに連載できればと思っています。たまには国内の登山やクライミングについても書きたいと思っています。国内登山歴リストは次回書かせて頂きます。

今回は一番最近の海外遠征であるパタゴニア遠征（2019年1～2月）から私自身の復活についてです。

## パタゴニア フィッツロイトラバース敗退

**2019年2月 メンバー横山勝丘、佐藤裕介**

パタゴニアでやろうと思っていたのは、ジャンボが長年トライし続けていたフィッツロイトラバース。アウトドアメーカー「パタゴニア」のロゴはフィッツロイ山群なのだがその8つのピークを継続しながら全て一回のトリップで登るというのがフィッツロイトラバースである。数年前にフィッツロイトラバースは初めてトレースされた。同じことをしてもつまらないのでトミー達に

よって初トラバースされたのとは反対側からやってみる計画を立てた。フィッツロイトラバースにはクライミングの持久力と言うよりは耐久力が求められる。小川山～瑞牆で２泊３日100ピッチ以上の継続マルチなど激しいトレーニングを重ね、その耐久力という意味では過去最高の肉体と技術に仕上げ遠征に臨んだ。

結果は２座目の下降時、懸垂下降の失敗により私が大怪我を負い遠征は失敗に終わった。フィッツロイ山群の稜線上で大怪我の事故を起こし初めて救助された事例の様だ（この山群では基本ヘリ救助は無く、厳しい岩山なので救助が非常に困難である）。詳細はジャンボが「登山研修ＶＯＬ．35」にまとめている。

## 事　故

2019年２月パタゴニアで大事故を起こした。

私には事故当時の記憶がないのだが、文字通り九死に一生を得るような状況だったようだ。パートナーのジャンボ（横山勝丘）をはじめ様々な方々の尽力で私は生かされた。パタゴニアで半分寝たきり状態の入院１カ月を終えて帰国。当初は復活する気満々で来年の夏にはウルタル行こうぜとジャンボを誘ってるようなバカだった。帰国翌日にはクライミングジム通いを始め数か月後には少しクライマー的な事ができるようになってきた。しかしある程度までの回復後は進展のない１年を経て、私は半分クライマーであることを諦めたのだと思う。いつまで経っても体の不具合は取れることなく、以前のような限界を攻めるようなトライは考えにくかった。こらえ性の無い私はそう思いこんでしまったのだ。

「終わったな……」

半分は悲しく。半分は少しホッとしている自分に気が付いていた。これからはのんびりとクライミングや山に付き合っていくことになるのだろう。自分のクライミングは止めるのかもしれない。どうやら山で死ぬことなく生涯を終えられる可能性も高くなったようだ。

目的もなくダラダラと生活を続けているとコロナ渦が始まりそれを言い訳に、更に覇気のない日々を送っていた。その頃の私はクライマーとして終わっているのでなく人間的に終わっていた。自殺を本気で考えるまでは至らなかったが、自殺のニュースを見ると「そういうのもあるよなぁ」とスンナリと理解してしまえる精神状態だった。何に対しても無気力で、鬱とか俺には関係ないと思っていたけど振り返ってみるとその傾向があっただろう。大袈裟に言うと廃人的な生活だった。

## 心の復活

何が切っ掛けですか？と聞かれても、都合の良い答えは出てこない。2021年、にわかに私のモチベーションは

上昇した。仕事の為富士山へ向う運転中、やりたい事を妄想しまくっている自分を見つけて

「俺は復活した」

と確信することができたのだった。御殿場で仲間と楽しくこれからの夢について話しまくった。体には色々と不具合あるけれど、少なくとも心は復活した。今の自分にやれる範囲で良いから「本気でチャレンジしていきたい」と怪我後ようやく思えるようになったのだった。

## リフォームと瑞牆開拓プラン

夏に中古物件を買うことになり結果的にやるつもりのなかったリフォームと言うかリノベーションにも没頭した。ガイド仕事ももっと充実した良いものにしたいと感じて気合が入った。通常のガイディングとしてはあり得ないような瑞牆マルチ開拓プランを連続した。お客さんを巻き込んで未知のラインを探す楽しみを一緒に味わったのだ。開拓プランは既成ルートをガイドするのとは段違いに大変だ。気を使うことも多く、常にグランドアップでの開拓なので何十本も木こり作業やブラッシングしながらのクライミングになり毎回のように相当体力を消耗しグッタリと疲労した。そんな仕事とリフォームの日々を送っていると自然に体は締まってきていつの間にかクライミング時のベスト付近まで体重も落ちていた。体のキレも良く割と体全体が好調だ。

そんなとき、仲間が瑞牆の「現人神（5.12ｂ）」をトライしているとことを知る。私のやりたいクラックリストの上位にあり続けたルートである。怪我以降とても取り付けないと思っていたが、「ちょっとやってみようかな？」とその気になってきた。

次号へ続く

JMSCA

令和３年度
第12回Web理事会議事録

**日　時**：令和４年２月10日（木）
14：00 ～ 17：30
**場　所**　Web会議
**出席者**　丸会長、亀山、小日向副会長、小野寺専務理事、古賀、村岡、相良、蛭田、濱田各常務理事、山口、町田、前田、山本、六角、青山、水村、栗田、水島、野村、安井、小竹、笹生、原各理事、中畠、古屋各監事、同席者：赤尾事務局員

**１．開　　会**

**２．会長挨拶**

いつもご苦労様です。この２、３か月で大きな動きがありました。２月に山岳スキー競技日本選手権黒部・宇奈月温泉大会が認められて、開催されることになりました。理事の皆様も、ぜひご参加ください。今後とも、ご協力のほどよろしくお願いします。

**３．会議成立状況報告**

理事数　24名中　23名出席
監事数　２名中　２名出席

**４．議　題**

**議案第１号　議事録の承認について**

事前送付された2021年度第11回理事会議事録に関して全員異議なく承認された。

**議案第２号　山岳スキー強化計画について**

笹生山岳スキー委員会委員長から、配布資料を基に説明がされた。

1．当内容は、ガバナンス委員会のチェックがされている。
2．当内容はＪＯＣの強化指定とは連動していない。

本件の承認は、これに先立つ常務理事会でおこなわれており、今回は報告になった。

**議案第３号　2023年 ＩＦＳＣ ＢＷＣ開催承認について**

村岡常務理事から、配布資料を基に説明がされた。

義務について、コロナ禍の場合どうなるかを確認するとともに、丸会長サインで進める予定。

当内容についての採決結果

反対、棄権ともになし。議長を除く22名全員賛成。

**議案第４号　2023年後期登山奨励金登山隊**

小野寺専務理事から、配布資料を基に説明がされた。チャラクサ谷Ｋ７，ガッシャブルムＶＩ峰隊登山の奨励金審査の承認申請。

濱田常務理事から、

最近同じ人からの申請が多いようです。傾向として、申請件数が伸び悩んでいますか。

回答：対象が先鋭的な山登りということもあり、正直なところ、申請件数は限定されてきている。

当内容についての採決結果

反対、棄権ともなし、議長を除く22名全員賛成。

**議案第５号　岩手県／盛岡市との連携協定について**

佐賀県の話を聞いた岩手県が連携協定を提示してきた協定書。

安井理事から

岩手県も協力的ですので、当協定書を締結することは問題ありません。

丸会長から

地方自治体との関係強化という点で、葛飾、佐賀に次いで第三号となる。地方自治体との連携は、企業がＣＳＲへの貢献手段として協賛金を出すことについて見直しがかかり下火になってきている中一つの有力な方法です。地方からの助成を仰げる手段のひとつですので、こういう活動にもご理解ください。５－10年後を考えたときに重要な協定と認識しています。

山本理事から

当件について問題ありません。賛成したいと思います。

当内容についての採決結果

反対、棄権ともなし。全員賛成（22名）。

**議案第６号　ＪＭＳＣＡ加盟団体振興推進ＰＴ設置要項（案）について**

亀山副会長から、配布資料を基に説明がされた。

ＪＭＳＣＡと地方の岳連、国体団体との関係が希薄になっていくなかで、各岳連が直面しているいくつかの問題を共有し、改善にむけた活動をとれるために設置要項（案）ができたので共有します。今後、会長が、リーダー、副リーダーを任命するとともに、人的、財政的、地域的な問題を含め問題点を収集して、常務理事会に報告していきます。

原理事から

全国の中で徳島のように大きくない岳連の意見が反映できればと思い、ぜひ参加したいと思います。

水島理事から

すべて常務理事会に報告とあるが、理事会には報告されないのか。

回答：理事会に報告した方がよいと思われる内容については、現在と同様、随時理事会に報告していきます。

丸会長から

当ＰＴ設置のきっかけは某岳連の問題だったが、経済的、人的問題等についても聞いています。法人化を含めた問題もあるので対応していきたい。重要なのは、機動力と即効性で、いくつかの団体から情報収集を始めており、早い対応が必要になってきています。

中畠監事から

当ＰＴは、現状の問題をまとめる諮問機関のような機関で、改善活動の執行は別途委員会等で行われるとみればよいか。スケジュールはどうなっているか。予算化はされてるか。

回答：ＰＴが独断的に進めることはしません。今年の秋ぐらいまでに形づくりをし、情報収集し、来年前半ぐらいまでに方向性をまとめ提案をしたい。また、お金はどれくらいかかるか不明なので、来期の予算にはいれておらず、必要になったときに、各委員会と協議し随時補正予算で検討するかたちで対応したい。

当内容についての採決結果

反対、棄権ともなし。全員賛成（22名）。

**議案第７号　令和４年度事業計画方針案について**

小野寺専務理事から、配布資料をもとに説明がされた。

今回は、３月10日の理事会で正式承認される前のドラフトということで配布した。総括は、昨年と同じものを踏襲し一部追加しています。計画については、委員会の議事録からそのまま内容をもってきたものや、委員会で協議決定された内容と異なっているなどの齟齬が一部ありました。訂正はしておきます。次回理事会でご承認をいただく予定ですので、内容変更が必要であれば、２月末日までに、メール等でご連絡ください。

**議案第８号　三井ダイレクト損保からのご提案について**

小野寺専務理事から、今提案は山岳共済会の代理店である瀬田工業と三井ダイレクトとの契約になることの説明があった。続いて、蛭田常務理事が、三井ダイレクト損保の概要と改善方向について説明を行った。会員を増やす方法として、三井ダイレクト損保のアドバイスにより、日山協山岳共済会のホームページを変更すること、Googleでの検索結果でＪＭＳＣＡを優先的に表示するような変更も考慮されていること、三井ダイレクト損保は、アンケートを通じ一般顧客（特にシニア）の声を聞けるので積極的な改善提案をしてきていること等。今回、メールで、関連資料を送付しているので、参考にしてください。

栗田理事から

検索のキーワードをもとに、検索結果が上位に表示をさせるのはそれほどむずかしくはないようです。保険のプロとしてやっていただき、数値効果もだしていただければと思います。”新規“という言葉をキーワードにして、その意識づけができるようにアナウンスするとよいと思います。

水島理事から

ホームページを見やすくし、利便性を高めるためにはお金がかかるのではないか。変更自体を反対しているわけではないが、当変更による具体的な費用と期待する効果をある程度明確にした方がよいのではと思う。

回答：まず、前年の実績である50,000件にもっていきたい。一方で、モンベルや、都岳連の保険加入者数は増えているので、負けないように何とか頑張りたい。

丸会長から

共済会に入会し、保険に入ったその瞬間、保険が有効となるようなしくみにしてほしいとお願いしている。ホームページを変えるのが最終目的ではなく、その変更を通じて件数が増えることが目的。ホームページ変更はその改善のためのアクションプランの一つとしてとらえ、多少お金がかかることはやむをえないと認識している。

当内容についての採決結果

反対なし、棄権１名（保険会社勤務なので）。賛成（21名）

笹生理事

共済会入会による他のメリット（夏山講習会の減額、自然保護委員会観察会の参加等）も、強調してはどうか。

回答：今後各員会に相談いたしますので、よろしくお願いします。

前田常務理事から

共済会員については、すでに一部のイベ

ントで安く提供しています。

**議案第９号　事務局の室内改造（フリーアドレス）について**

小野寺専務理事、丸会長から目的を説明。

現在事務所には、７－８名が常駐しているが、将来的には倍の16名くらいが当事務所内で業務することになる。席は固定ではなく、ＰＣはロッカーに入れるようにしておき、来社次第空いている席を使用するイメージにしたい。現在、購入する備品を含め見積もり等を入手している。委員会のメンバーが、夕方以降に来局し資料作成等をおこなっているが、心おきなく作業できるような環境にしたい。

今の事務所体制では、人員増に伴いもう一部屋を借りること（月50万の費用増）が、必要になってしまうので、これを避けるために空いている席があったら誰でも使えるような環境にする。データの保管についても、クラウド化による外部からのアクセスを可能にし、リモートで業務遂行ができるようにしたい。その結果旅費の削減も可能となり、全体の経費削減につなげられる。

水島理事から

どのくらいの費用を見込んでいるか。変更によっては現状回復費用もかかるのでは。

回答：費用として400万～500万円を想定。

今後詳細を検討したい。

相良常務理事から

今回新規に構築した費用は何割かが固定資産になる。固定資産は通常予算と異なり、予算計上されない。一方で引っ越し費用や、備品等を除却すれば廃棄費用になる。全体で500万円以下に何とか収めたい。

中畠監事から

次回３月理事会までに、全体の費用見積もりを出し、予算承認時に提案すればよいでしょう。

結果として見積もりの提出を次回の理事会で行い、全体予算と合わせての審議のうえ承認の方向になった。

議案第10号　令和５年勲章および褒章候補者の推薦について

小野寺専務理事から配布資料を基に、ＪＳＰＯからきている候補者としての資格、要件の説明がされた。今年３月１日までに推薦が必要。

丸会長から

ＳＣのオリンピック大会への招致や、ＪＭＳＣＡとして、山岳とＳＣの融合等の実績が顕著な八木原さんを推薦してはいかがでしょうか。

八木原さん推薦の方向で採決します。

当内容についての採決結果

反対、棄権ともなし。全員賛成（22名）。

当結果をご本人に通達し、受けていただけるならば推薦する。

**議案第11号　令和４年予算案について（追加）**

相良常務理事から配布資料を基に現行の数値状況の説明があった。

昨年と比べ収益は、＋7800万、支出は約＋１億円増、収支差ではマイナス5000万円となっている。共済会3400万、協賛金１億4500万、補助金9400万が主な収益源。正会員会費は減っている。気になる点としてＳＣの収支差が大きい。

小野寺専務理事から

昨年は1900万の赤字、今年は5000万の赤字予算になっている。ＪＯＣからの補助金は大きく、東京オリンピックが過ぎたがそれだけでは大きく減らないといわれている（昨年１億１千万円）。旅費、交通費が大きく、昨年と比べ約8000万円近く増となっている。減らせないか検討を関係者に依頼している。登山部はこれ以上減らすというのは無理と認識している。

古屋監事から

３月初の時点で収支プラスマイナスゼロが望ましいが、収入は現行から増えず限られてくるので、おのずと支出を減らすしか方法がない状況ではないか。

小野寺専務理事から

費用削減については、すでに予算委員会でも協議しているが、理事会メンバーにも、予算案に目を通していただき、費用が多いところの委員会は減らせるものは減らしてほしい。それができなければ、一律でＸ％削減という方法をとらざるを得ない。

丸会長から

スポンサー収益ということで１億4500万は確定したが、一方で、昨年のレヴェニューシェアが3000万円だったものが700万円になっている。理由のひとつとして放送用映像費4200万円が多いように見える。少しでも削れる可能性はないでしょうか。

回答：設備映像作成費用を減らすのは難しい。別の系統で放映していき、レベニューを増やしていく方が良いかもしれない。

濱田常務理事から

現在ＪＯＣへの予算申請金額が小さいことが強化費が多くない一因と認識している。ＪＯＣからのＳＣ向けの補助金が増額ができるように考えている。１．１億は昨年実績。

当協会はオリンピックメダルの数の割に、補助金が少ない。種目数増、７年後の正式種目化、アウェイでのオリンピック開催などを背景にし、申請金額を増やしたい。資金ショートが発生する場合には、優先順位を鑑みて一部の大会をやめるなど個々に判断していく。

栗田理事から

増額の理由の一つであるアウェイでのオリンピック開催について、説明をお願いできればと思います。

安井理事から、

アウェイのオリンピック開催とは、次回のパリオリンピックの本拠地を探すための活動や、補助スタッフ８名の費用のことで、今年は準備のために例年よりかかる見込みである。現状では、旅費、謝金が増えている。上位選手は強化費用が提供されているが、ピラミッドの下の方の選手は旅費等は自己負担。実際は、6000万くらい自費負担している。強化費は、２月後半申請、６月に決定となっていてわかりずらい部分はあるが、補助金はいただいた分は執行できるようになっている。

小野寺専務理事から

ＪＯＣの協会費用申請の結果、より補助金額が多くなることが判明したら、その時点で補正予算を組めばよい。ただ、赤字5000万は大きいので何人かの理事の方に、ＳＣ関係の技術、強化、大会運営にかかわる旅費、交通費減などをお願いしている。

丸会長から

あるスポンサーは、協賛金額は、1700万円で、基準（2500万円）にとどかないが、物品供与をしていただき、会社名を全面的にユニフォームやＦＢで出せるので露出度を高められ魅力として売り込めた実績がある。今後、山岳スキーやアイスクライミングの大会が増えることで、シルバーやブロンズスポンサーも、開拓できるので、皆さん方の力を是非お借りしたい。

村岡常務理事から

ＳＣの収益改善のために、大会（ＢＪＣ、ユース大会）参加料の値上げや、謝金、旅費のコスト削減、３回目ワクチン接種者はＰＣＲ検査の免除にするなどいくつかコスト削減活動はおこなっている。

小野寺専務理事から

今まで協議した予算の現状を全国理事長会議でどこまで話したらよいか。

中畠監事から

１年に１回なので、現状をそのまま話して、ＪＭＳＣＡ本体の懐事情が厳しいことを伝えればよいのでは。

野村理事から

財政支援を望んでいる岳連もあるので、現状を正しく理解していただくために説明した方がよいのでは。

小日向副会長から以下の２点のコメントがあった

1. アシックスがＳＣに参入したいという意向をもっている。会場使用などで、お付き合いできる可能性あり。
2. 日本ではＳＣの選手個人に収入が入り恩恵をうけているよう。国によっては、協会にバックするようなシステムもあるようだが、この話を進めるときには慎重に進めることが必要。

**議案第12号　山岳スキーの補正予算について（追加）**

相良常務理事から

すでに常務理事会で承認を得ているが、第二次補正予算についての経緯説明が行われた。

協賛金をもらえることになり、当該大会を行うことになった。ＰＣＲ検査費用が相当かかっている。収入、経費150万で対応するが、マイナス分が出たらスキー委員会のやりくりで対応する。

特に異論はなく、了解、承認された。

**報　告**

**報告第１号　１月度月次決算報告について**

記載省略。議案配布資料を参照してください。

**報告第２号　2021年度全国理事長会議について**

２月13日に行う全国理事長会議で各岳連からだされた質問、要望に対しての回答案を小野寺専務理事から説明した。その回答案について問題があるようなら指摘してください。

大阪府岳連、福井県山岳連盟、山梨県山岳連盟、群馬県山岳連盟からのＱ＆Ａは特に問題なし。愛知県山岳連盟からの質問で、

法人化について、夏山リーダー普及の取り組みについては、別途回答を用意しメール送付することになった。

**報告第３号　山岳スキー日本選手権募集経緯について**

記載省略。議案配布資料を参照してください。

**報告第４号　国体参加都道府県数の改定についてご依頼**

小野寺専務理事から配布資料をもとに説明を行った。

岐阜県山岳連盟からグループ分けするのに公平性がないということで、改正の検討ができないか依頼をいただいている。

**報告第５号　国体３巡目・意向調査について**

記載省略。議案配布資料を参照してください。

**報告第６号　理事も業務報告を書いてほしい（会長からの依頼）について**

丸会長から

後日フォームを送付しますので、昨年６月から今年１月までの実績を記入後提出お願いします。理事の方で、当報告を書きたくなければ書かなくても結構です。

中畠監事、古屋監事から

当報告は、重要事項であり監事も見る権利がありますので、見せてください。

また、理事は、代表者の執行状況の監視をしたり、意思表示をすることが重要です。

山口理事から

業務執行理事を監督するのが理事の役割ですので、丸会長が業務実態を知りたいという趣旨はわかりますが、ガバナンスの観点から見ると望ましくないということになります。

丸会長から

それでは、別途方法を含めて相談させてください。

その他の意見

現在委員会等でも報告しており、二重の手間になるのではという意見も出た。

当件は保留となった。

**報告第７号　ＪＯＣコーチ設置事業の改正について**

小野寺専務理事から配布済資料に基づいて説明がされた。令和４年から制度が変わった。ＪＯＣ雇い、１ＮＦにハイパフォーマンスディレクターは１名（複数競技でも、代表は１名）ナショナルヘッドコーチや、ナショナルコーチは競技別だが、ＪＯＣナショナルコーチアカデミーのコースを受講していることが条件。今後は、山岳スキーもはいってくるので、ＳＣと協議が必要。

山本理事から

当内容は承知済。今後の流れとして、推薦候補者を常任理事会に提案、承認されたら、ＪＯＣに推薦状を出すという手順になります。

小野寺専務理事からの補足

ＪＯＣコーチに対して謝金は払わない。日当は払うが、契約は１年ごと。兼業はできない契約となっている。

水村理事から

ＪＯＣ雇用について、今後謝金制度に移行していくと聞いている。実質稼働状況にあわせて謝金が発生する方向。

**報告第８号　夏山リーダー認定**

蛭田常務理事から、常務理事会で承認されたことが報告された。

**報告第９号　ＳＣユーススピード強化選手選考基準について**

安井理事から常務理事会で承認されたことが報告された。

**報告第10号　（一社）大阪府岳連名義後援承認について**

例年のことであり、内容を読んでおいてください。

**報告第11号　業務執行理事の職務執行報告**

業務執行理事一人一人が事前に用意したフォームにのっとり説明した。

町田理事から

もう少しわかりやすく記入していただけるとありがたい（できれば、達成度が80％とか。課題は何かなどを記入していただくなど）。

**その他（追加）**

古屋監事

毎回理事会が５時で終了せず、メディアの記者会見が入り何名かが中座することがよくある。会議の運営方法や、時間帯などを改善した方がよいのではないか（会見を５時半からにするとか）。中座ということは、その時間帯で職務を執行できないことになってしまいますので。

## 寄贈図書

| | | |
|---|---|---|
| （公財）健康・体力づくり事業財団 | 「健康づくり」No526 No527 | 会　報 |
| （株）山と渓谷社 | 「山と渓谷」３月号 ４月号「ROCK & SNOW」No.095 | 寄　贈 |
| （株）日本運動具新報社 | 「スポーツ産業新報」第2351号　第2354号 第2356号 | 新　聞 |
| （公社）日本ネパール協会 | 「会報」2022年新年号 No259 | 会　報 |
| 兵庫県山岳連盟 | 「兵庫山岳」第656号 第657号 | 会　報 |
| （公財）日本スポーツ協会 | 「JSPOスポーツニュース」「JSPOフェアプレイニュース」Vol.137 | 広報誌 |
| （公財）日本スポーツ協会 | 「アクティブチャイルドプログラム」第９号 第10号 | 広報誌 |
| （株）日本運動具新報社 | 「スポーツ産業新報」第2352号 | 新　聞 |
| （公社）日本武術太極拳連盟 | 「武術太極拳」2022年２月 No384 ３月号 No.385 | 会　報 |
| （株）ネイチュアエンタープライズ | 「岳人」３月号 No897 | 広報誌 |
| 日本勤労者山岳連盟 | 「登山時報」３月号 No565 ４月号 No566 | 会　報 |
| （一財）日本防火・防災協会 | 「地域防災」2022年２月号 No42 | 会　報 |
| （株）日本運動具新報社 | 「スポーツ産業新報」第2353号 | 会　報 |
| 東京野歩路会 | 「山嶺」Vol.99 No1104 No1105 | 会　報 |
| おいらく山岳会 | 「山行手帖」No747 No748 | 会　報 |
| 日本山岳会 | 「山」　2022年２月号 No921 2022年３月号 No922 | 会　報 |
| 福岡山の会 | 「せふり」　No409 | 会　報 |
| （特非）日本トレーニング指導者協会 | 「JATI EXPRESS」Vol.87 | 会　報 |
| 日本山岳写真協会 | 「日本山岳写真協会ニュース」2、３月合併号 第490号 | 会　報 |
| （公財）日本スポーツ協会 | 「Sport Japan」Vol.60 | 会　報 |
| 読売新聞 北陸支社 | 「読売新聞」2022年３月６日付 | 新　聞 |
| 長野県山岳協会 | 「やまなみ」No244 | 会　報 |
| 立山・剱岳方面遭難対策協議会事務局 | 山岳遭難白書「令和３年 試練と憧れ」 | 会　報 |
| （公財）ヤマハ発動機スポーツ振興財団 | 2021年度障碍者スポーツを取り巻く社会的環境に関する調査研究 | 会　報 |
| 神奈川県山岳連盟 | 「ときわ木」180号 | 会　報 |
| 日本ヒマラヤ協会 | 「HIMALAYA」No.500 | 会　報 |
| 新潟県山岳協会 | 「新山協ニュース」第359号 | 会　報 |
| 富山県山岳遭難対策協議会 | 「山巓」令和３年の山岳遭難防止活動 | 会　報 |
| （公財）京都府スポーツ協会 | 「京都府スポーツ時報」No137 | 会　報 |
| 明治大学 山岳部炉辺会 | 「炉辺通信」創部百周年 記念号 | 会　報 |
| 大阪府立体育館 | 「季刊 府立体育館」No.140号 | 会　報 |
| （特非）日本スポーツ芸術協会 | 「Sport Art 2022」March 2022 | 会　報 |
| 日本山岳文化学会 | 「日本山岳文化学会論集」第19号 | 論文集 |
| 中華民国山岳協會 | 「中華山岳」＜雙月間＞287 | 会　報 |
| 日本スポーツマンクラブ財団 | 「日本スポーツマンクラブ財団 会報」第169号 | 会　報 |
| （一社）埼玉県山岳・SC協会 | 「SMSCA」NEWS No.73 | 会　報 |
| （公社）日本スカッシュ協会 | 「SQUASH」Vol.90 | 広報誌 |

## 「ガンバ！負けるなガバちゃん」

作者:未来

## 表紙のことば

先般、山と渓谷社から『日本人とエベレスト』が出版された。日本人による初登頂50年の記録が纏められている。

そこで４月号から表紙写真は、エベレスト・シリーズとしました。

ネパール・ヒマラヤは、３年８カ月間の登山禁止措置を経て1969年秋から再解禁された。第２次ヒマラヤン・ブームの到来である。

1970年代の「ヒマラヤ鉄の時代」の目玉は、エベレスト南西壁であった。世界中の登山者の耳目がこのヴァリエーション・ルートに注がれた。

（写真撮影　尾形好雄）

## 編集後記

気が付くと４月になりました。近くの公園の桜も半分散りましたが、違う種類の桜が咲き始めまだまだしばらくは楽しめそうです。

谷津干潟一周のお散歩を兼ねた運動をするとこの時期だけだと思いますが鶯のホーホケキョが聞こえるのです。山でならわかりますがこんな市街地でもいるんですね。シジュウカラも元気に飛び回っています。コロナも戦争も関係ありません。

電車に乗り会社に行くと現実に戻されますが、次の登山のこと、春合宿、夏合宿のことを考えて、目の前の本業の仕事と、山の仕事を次から次にこなすことが充実している平和な生活だと思います。　（蛭田伸一）

トレランJAPAN
一般財団法人 日本トレイルランニング協会
〒141-0031
品川区西五反田６-３-23-205
☎03-3492-0355　FAX 03-6451-3767

登山月報　第 637 号
定　価　110 円（送料別）
予約年間　1,300 円（送料共）
昭和 45 年 12 月 12 日
第三種郵便物認可
（毎月 1 回 15 日発行）
発行日　令和４年４月15日
発行者　東京都新宿区霞ヶ丘町４番２号
Japan Sport Olympic Square 807
公益社団法人
日本山岳・スポーツクライミング協会
電　話　03－5843－1631
ＦＡＸ　03－5843－1635

山岳雑誌 岳人
山と人、時代をつなぐ「岳人（がくじん）」
5月号 発売中
【特集】北アルプスのテント場
★モンベルのウェブサイト
全国のモンベルストアや書店にて発売中！
毎月15日発売　価格968円(税込)
年間購読がおすすめです
購読割引　送料無料　限定品プレゼント
年間購読なら、お得な価格で毎月お手元に冊子が届きます。
通常価格12冊　10,560円(税抜) 11,616円(税込)
年間購読なら12冊　1冊分おトク！　9,680円(税抜) 10,648円(税込)
年間購読特典
岳人コンパクトマルチランプ
限定デザイン
さまざまなシーンで活躍する超軽量ヘッドランプ。
全国1,900カ所以上でご優待！
岳人カード
全国の温泉や山小屋など提携施設でさまざまなご優待が受けられるカードです。
期間限定キャンペーン
岳人900号記念キャンペーンオリジナルバンダナプレゼント
1974年に創刊した『岳人』は、2022年6月号で900号を迎えます。これを記念して、年間購読者さまにオリジナルバンダナをプレゼントします。【申込期間：6/14（火）まで】
年間購読のお申し込みはこちらから！
https://www.gakujin.jp/
全国のモンベルストアでも受付中！
お問い合わせ　モンベルポスト
フリーコール 0120-982-682／TEL 06-6538-5797
※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

# SDGsで、未来をつなぐ

三井住友海上は、安心と安全の提供を通じて、持続可能な社会の実現に取り組みます

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

## SDGs（Sustainable Development Goals）とは

2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に掲げられた包括的で持続可能な社会の構築を目指す「持続可能な開発目標」のことです。

| 持続可能な地球環境 | |
|---|---|
| 関連する主なSDGs | 主な取組 |
| 12 13 14 15 | ・再生可能エネルギーの普及支援<br>・自然災害リスクモデルにもとづくコンサルティング |

| 安心して暮らせる社会 | |
|---|---|
| 関連する主なSDGs | 主な取組 |
| 1 2 3 4 5 6 | ・健康づくりの支援<br>・先進技術を活用した利便性の高いお客さま対応 |

| 活力のある経済活動 | |
|---|---|
| 関連する主なSDGs | 主な取組 |
| 7 8 9 10 11 | ・次世代モビリティ社会への対応（自動運転車等）<br>・災害に強いまちづくりの支援 |

立ちどまらない保険。

MS&AD 三井住友海上

三井住友海上は、レジリエントでサステナブルな社会※をめざします。

※外部環境にしなやかに対応する、持続可能な社会

JMSCA

# 登山者のマナー
# 山岳保険

## あなたのは山岳保険ですか？

- □ 傷害死亡・後遺障害
- □ 遭難捜索費用
- □ 救援者費用
- □ 傷害入院
- □ 傷害通院
- □ 傷害手術
- □ 日常生活賠償

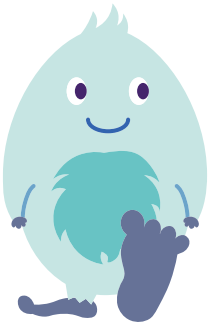

**日山協 山岳共済会** 〒170-0013東京都豊島区東池袋3-7-11-707

TEL 03-5958-3396 FAX 03-5958-3397

E-mail sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

月曜日～金曜日 10:00～17:00（祝日除く）


携帯からも資料請求ができます。
https://sangakukyousai.jp



「MAMoL マモル」
山を愛する人たちの共済会を～

WEBからもお申込みいただけます